

平成29年度 沼田市地域公共交通会議会議録

- 1 日 時 平成30年1月15日（月）13時52分～14時24分
- 2 場 所 沼田市役所北庁舎 4F 中会議室
- 3 出席者 五十嵐会長 外委員11名（別紙のとおり）
- 4 会議の概要

傍聴者なし。会議の結果は、沼田市公式ホームページ上で公開することについて確認。

定足数については委員14名中、12名出席であり、会議は成立した。

（1）協議事項

- 1）平成29年度地域内フィーダー系統確保維持計画に係わる事業評価について

①内 容（「資料」1～10ページ）

協議事項（1）平成29年度地域内フィーダー系統確保維持計画に係わる事業評価について、資料1ページから10ページまでが関東運輸局から示された様式及び参考資料として作成したもの。1ページについては①が運行事業者である関越交通株式会社、②の事業概要については対象となる路線名や運行日数などを記載してある。

③前回（又は類似事業）の事業評価結果の反映状況については、6月に審議を行った、平成30年度の計画へ反映されている旨の記述をしている。

④の事業実施の適切性について、事業が適切に実施されたかにより、A、B、Cの3段階で評価を行う。事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された場合A、事業が計画に位置づけられたとおりに実施されていない点があった場合B、事業が計画に位置づけられたとおりに実施されなかった場合Cとなる。②で示した事業概要は計画のとおりのためAとした。

⑤目標・効果達成状況について、こちらも④と同様にA、B、Cの3段階で評価を行う。別紙平成29年度地域内フィーダー系統確保維持計画に2. 地域公共交通確保維持事業の定量的な目標・効果に評価すべき数値が記載されている。目標については、1つ目が1日あたりの乗車人数52人、2つ目が収支割合34.8%。また、効果については現在徒歩で通院している交通弱者への交通手段を確保することにより、医療ニーズへの充足を図る。沼須町から市街地への交通手段を確保することにより、日常生活の利便性の向上を図るをあげている。事業実施の結果1

日あたりの乗車人数は41.5人、収支割合は28.2%とともに目標を下回ってしまった。これは主な利用目的地と考えられる利根中央病院の医師の引き上げなどにより、診療科目が減少し、患者数が減ったことが乗降数に影響したものと考えられる。8ページの運行実績を見ると平成29年4月から実績が落ち始めている。利根中央病院の診療科目の削減もこの時期に行われており、時期が一致している。バス停別の乗降調査から病院の最寄りバス停に乗降が集中しており、本事業による、医療ニーズへの充足を図るという効果は認められると評価した。また車両の減価償却費補助等については計画どおり達成した。以上を総合してBとした。

⑥事業の今後の改善点について、バス停別の乗降調査により、起終点及び病院の最寄りのバス停に乗降が集中しており、通院が主な利用目的であることがわかる。2系統のうち、沼田駅～利根中央病院系統に統合することを検討及び一層の利用促進を図るため、主な利用目的地である病院に今年度作製予定の時刻表を配付し、通院者に広報することで新たな利用者獲得につなげることを掲げた。

次第2ページの事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について、沼田市全体の公共交通と沼須線の現況を記載した。本事業は地域医療にとって大きな役割を果たしていた利根中央病院が公共交通空白地域に移転することになり、高齢者など交通弱者の移動手段を確保することを目的としている。本地域では鎌田線等の営業路線が地域間幹線として走っているため、委託路線とあわせて利用しやすいネットワーク形成を図ることを目指している。

次第3ページから10ページは事業及び事業評価のポンチ絵。3ページの地域公共交通の現況については、既存の事業者などの記載をしてある。資料右側に記載してある、沼田市の概要では高齢化率31.5%であり、内閣府が発表している平成29年版高齢社会白書によれば、全国の高齢化率が27.3%のため、全国平均より沼田市は高齢化が進んでいると言える。このことから高齢者の通院手段の確保は重要であると言える。事業の概要については、先ほど説明したとおり。また、協議会の開催状況については、前年度の計画による事業評価のため、平成28年5月24日と本日開催の2回を記載。

前回の事業評価結果の反映状況については、先ほど説明したとおり。また、定量的な目標・効果についても目標・効果達成状況のなかで触れているため、資料をご覧頂きたい。アピールポイントとして、沼須線は主な発着点である沼田駅に加え、経路の途中にある沼田市保健福祉センターを発着点とする便を加えることで、出来るだけ多くの便を運行でき

るようにしている。また、この2箇所は他路線の多くが経由するため、乗り継ぎにより利根中央病院に向かえるようになっている。

目標・効果達成状況と事業の今後の改善点については、先ほど触れたとおりのため、資料をご覧いただきたい。また、事業評価提出後、関東運輸局などから指摘があり、表現の訂正などがあるかもしれないがご了解いただきたい。

2) 平成30年度地域内フィーダー系統確保維持計画の変更について

①内 容（「資料」11～20ページ）

今年度6月に審議いただいた、計画の変更に係わるもの。

先ほどの事業評価の中で触れた部分でもあるが、変更の理由としては、運行開始時に比べ、利根中央病院の医師引き上げ等による診療科目の削減により通院患者が減少し、それに比例して沼須線全体の利用も落ち込んでおり、沼田駅～利根中央病院系統に比べ、沼田市保健福祉センター前～利根中央病院系統の利用が少ない状況のため。

沼田駅からの乗車が沼田市保健福祉センター前の約2倍を占めることから、利用促進と利便性の確保を図るため、沼須線を沼田駅～利根中央病院の1系統に統合するもの。沼田駅～利根中央病院系統1日6.5便、沼田市保健福祉センター前～利根中央病院系統1日3便の運行を沼田駅～利根中央病院系統に統合し、1日7.5便とする。

変更時期については、JRの時刻改正も踏まえ、3月17日付で検討している。具体的な運行時刻は、次第15、16ページに改正案と現行の時刻表をご覧いただきたい。

変更箇所については、太字とアンダーラインの箇所。2. 地域公共交通確保維持事業の定量的な目標・必要性については、先ほど変更の理由で述べた箇所を追記。

3. 地域公共交通確保維持事業の定量的な目標・効果については、系統の統合に伴い、目標の数値を変更。輸送容量については、車両の定員が運転手を除き13人であり、一日あたり往復7.5便のため、1日の輸送容量を195人に変更。1日あたりの乗車人数は、直近の輸送実績から算出をし直し、39.8人、収支割合も直近の実績により29.8%に変更。

3の2前号の目標を達成するために行う事業及びその実施主体（1）事業について、当初計画に記載した内容に加えて、計画変更による周知を図るため、ホームページ等の活用について記載。

また、本日の会議で計画変更の承認がいただけた場合、14ページ15. 協議会の開催状況と主な議論にその旨記載させていただく。また、変更計画を関東運輸局に提出し、認定を受ける過程で修正等を行う場合もありえるので、ご了解いただきたい。

3) その他

協議事項とは別になってしまうが、地域公共交通会議は、新年度の計画策定と事業評価を行うために同じような時期に継続して開催する予定。当面の予定では、来年度の5月末頃と1月下旬頃。また、市庁舎の移転に伴い、路線の見直しも含め、群馬県交通政策にご協力いただきながら、検討中。見直しを行う場合、必要に応じて会議を開催することもありえるのでご協力いただきたい。

〈協議結果〉

- 1) 平成29年度地域内フィーダー系統確保維持計画に係わる事業評価について、質疑応答の後、諮った結果、異議なく原案のとおり承認された。
- 2) 平成30年度地域内フィーダー系統確保維持計画の変更について、質疑応答の後、諮った結果、異議なく原案のとおり承認された。